

平成21年度 学校関係者評価表(結果)

学校番号	学校法人静岡理科大学 静岡北高等学校	記載者	森竹健治
------	--------------------	-----	------

学校教育目標	1. 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。2. 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。 3. 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。	【総合評価】 概ね目標としたところについての期待した成果を得られたものと思われる。特に、入口の部分での厳しい生徒募集の状況下での学則定員獲得、中身の部分での教育活動の成果(特筆すべきはSSH活動における8月の全国発表会における科学技術振興機構理事長賞の受賞、3月の日本ストックホルム青少年水大賞における大賞受賞と本年9月の世界大会での日本代表校として研究報告をすることになったこと)、さらに出口の部分では、国公立大学・難関私立大学へ多くの合格者を出したことがある。また中学の開校に当たっては、40名の入学生でスタートを切ることができたこともまずまずの成果である。		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望を持ち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。			
今年度の重点目標		評価	成果と課題	次年度の取組
1 各学科・コースごとに、育てていきたい生徒像に見合った生徒を募集定員を満たすように獲得する。		5	学則定員を充足する449名の入学者を確保した。 理数科 95 国際C科 21 高・大一貫 31 普通科 302	募集対象年齢の生徒数が減少して行く中で、学校の魅力・特色・教育成果を前面に出した広報活動が必要。特に理数科・国際C科・普通科高・大一貫コースの応募者数を増加させる。
2 静岡北中学校開校に向けて、ソフト面・ハード面で受け入れ体制を整え、募集定員を獲得する。		4	ソフト面(特色ある教育プログラムの導入)・ハード面(中学校棟の改修工事)での受け入れ態勢は整えたものの、入学者が40名となり67%の定員充足率にとどまった。	ソフト面・ハード面での更なる充実をはかると共に、SPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)活動に取り組み社会的評価を得て学則定員の確保を目指す。早期段階からの募集活動の展開を展開。
3 法人内の高等教育機関である静岡理科大学及び各専門学校との連携を強化する。		4	例年より少ない卒業生の中で、法人内の大学・専門学校への進学者を、一定数獲得できた。大学とは高・大一貫教育のワーキンググループを発足させ、次年度以降の教育プランを提案できた。また、専門学校との間でも、専門学校の協力を得て、高・専一貫コースを希望する生徒を一定数確保した。さらに学校説明会でも、大学や専門学校からブース形式で参加してもらい、連携体制の認知度を高めた。	高大一貫教育のワーキンググループからの提案を受け、より教育内容が充実した教育を大学との連携で展開していく。また、専門学校との間でも、より高等学校時代に、専門学校での学習内容、資格取得、卒業後の進路を知ることにより、専門学校を進路の選択肢として考えるキャリアデザイン教育を推進する。加えて本校と各学校の担当者間の連携を密に取り、本校教員め生徒への情報提供の質・量を高める。
4 進学校としての知名度を高められる実績をあげる。		4	在籍数が少ない学年で、国公立大学合格者数59名、難関私立大学合格者15名を出した点は評価される。また、一般入試での合格者が増加した。	個に応じた志望校の選択とより高い目標を待たせる指導を行い、国公立大学合格者数の増加だけでなく、旧帝大クラスの合格者を出せるような指導体制を整える。
5 3年間一貫したキャリア教育実践プログラムを開発する。		4	一年次の進路講演講座、二年次のキャリアパートナーシップ、3年次の大学、職場等の見学の流れが確立した。またSSH活動を通じて、実践的なプログラムは展開された。	新たに開校した静岡北中学校からの6年のキャリア教育プログラムを、中高連携教育推進委員会で検討する。
6 より充実した教育を展開するために、個々の教員のスキルアップをはかるための教員研修に取り組む。		4	中学校開校と新学習指導要領への移行を契機として、内部の研修に加え、外部の研修参加の機会を増やすことができた。加えて、指導教員制の実施と研究授業を実施した。	自らが研鑽すると同時に、校内全体の状況に目を配り、個々の教員のスキルがアップするような機会を設ける。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	昨年度の成果に満足することなく、各分掌官の連携をとりながら、新たななる学校経営に挑戦する。	校長との情報交換を密にすることで、各教員が自分のミッションをよく理解し、計画された施策を実行し、外部から高い評価を受ける教育を展開した。	4	校長の方針に基づき、各分掌・学年がそれぞれの活動計画を推進・実行し、社会から評価される教育成果を上げた。また新たな学校経営として、平成22年4月に静岡北中学校が開校した。	昨年度大きな成果を上げたSSH活動において、本年度は国際的な活動を行うことにより、教職員・生徒のさらなる飛躍の場を開拓し、外部からより一層高い評価を得る。
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を考える。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整える。	新教育課程に関する研究は、教員への情報提供にとどまった。シラバスの配布については、不徹底な部分もあったが、教科部会で情報交換をすることで進度・内容に関する調整を図ることはできた。また授業アンケートをもとにした授業改善が行われたものの、十分なスキルアップ研修は行われなかった。生徒に対しての課題提示とその確認のための試験は実施された。	4	理数科における教育課程の変更を検討した。個々の教員のスキルアップについては、予備校の研修などを活用したものを実施し、授業展開にいかした。また指導教員制と科目ごとのグループ化によるシラバスの作成を通じ、教育内容の教員間の差が無くなり教育の質をあげることができた。	今回のSSHの再申請を視野に入れながら、理数科における教育課程の大幅な変更を検討しておくことが必要となる。加えて、今後の社会的なニーズや本校のあるべき姿をイメージしながら、学科・コースの精査・再編なども考えた教育課程の検討に着手することが求められる。また授業展開に関しては、すべての教員の授業において、それぞれの学科・コースの場において、わかりやすく教育成果が上がったといえる授業展開がなされるよう研鑽に努めることが課題となる。
生徒指導	健全な高校生活をおくれるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	問題行動を起こさないといった気持ちを持つ生徒を育成する。また、一層複雑になる社会環境の中で、心の病を抱える生徒たちに対しては、個々の生徒に応じた適切な指導体制を整える。加えて、社会に出る心構えとして、改めて基本的な生活習慣を確立する。	学校全体では生徒指導課、学級では担任による指導がタイムリーに展開され、問題行動を起こした生徒への対応や悩みを抱える生徒への対応が迅速かつ的確に行われた。	4	問題行動の発生件数は減少しており、指導成果は上がっていると思われる。これは、教員の早め々の声掛けと、事が起きた時の迅速な全校集会の開催などにより、生徒の気持ちを定期的に引き締めたことが問題発生への抑制につながった。また、社会的な問題でもある心の病で苦しむ生徒に対する対応も、一律な対応でなく、個々の生徒の状況に応じた柔軟な対応をとった。	さらに一歩個々の生徒の心に無見込んだ生徒指導が展開されることが必要。価値観が多様化する社会の中で、様々な環境で育ってきた生徒たちに対し、社会で共通の規範は理解させなければならない。心の病で苦しむ生徒に対しては、継続して家庭・スクールカウンセラーとの連携をとりつつ、個々の生徒に合った対応を取ることが必要。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキュリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、就職指導、進学指導、キャリアパートナーシップ事業	就職者に関しては、かなり厳しい状況が予想されるため、個々の生徒の実力をつける教育を行う。また、母集団数が少ない3年生で昨年度以上の実績を上げるための方策を展開する。	日常生活の中で生徒自らがPC教室の利用による情報収集や教員からの情報提供により、早期段階から進路意識を高める教育活動を実践することができた。また、キャリアパートナーシップに関しては、法人内・間の高等教育機関の協力を得ながら、受け入れ事業所を拡大することができた。	4	就職者に関しては、予想通り厳しい社会環境の中で、就職規模者に対し個々の希望する職種に決定させられなかったことについては反省が求められる。一方、進学に関しては、母集団が例年より極端に少ない学年でありながら、国公立59名の合格で、昨年以上の成果を上げることができた。加えて、キャリアパートナーシップの実施において、新たに清水中央ロータリークラブの協力を得られたこと。また進路講演講座を行ってくれた事業所も同プログラムの受け入れ事業所として加わってもらうことができた点は評価される。	就職については、今だ高校生の就職状況が好転するとは予想しがたいため、高いハードルを越えるための基礎学力やしっかりとした社会認識をもたせる指導をすることが必要。進学に関しては、さらなる実績の向上を目指していく指導をしていくことが求められる。加えて、この実績を広く社会に認知してもらう広報活動をしていくことが必要。

<p>安全管理</p>	<p>日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる必要がある。</p>	<p>防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行</p>	<p>防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しては、現状以上に意識を高める。加えて、教員の危機管理に対する意識をさらに強める。</p>	<p>体育館にて阪神淡路大震災教訓ビデオの上映と講話を実施し、生徒の意識啓発を行った。また、地域防災に参加する生徒の数も増加した。校内の危険箇所に関しては、学期の初めと終わりに危険個所の確認を実施した。スクールバスの運行に関連しては、公共の避難場所地図の配備、安全運転講習を実施した。</p>	<p>4</p>	<p>防災意識に関する啓発活動は予定通り実施できた。ただし、安否確認システムが有効に活用されているかについては、今一度検証が必要となる。教員の危機管理に関しての意識は、相対的には高いものがある。</p>	<p>防災や危機管理について、毎年のルーティンの中で意識付けをするといったことだけでなく、変化をつけながら、様々な角度から真に教職員・生徒が危機意識を高めていくような体制を学校として見直しをしていく必要がある。</p>
<p>保健管理</p>	<p>生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行う。また部活動の活性化を図り、ボランティア活動を積極的に取り組む。</p>	<p>検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化、ボランティア活動への参加</p>	<p>治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底する。また、運動部・文化部共に今年度以上の成果が残せるような活発な活動を展開する。</p>	<p>校医との連携を取りスムーズな検診を実施できたが、治療勧告に関しては、昨年同様三者面談も通じて保護者の協力も得た。県大会出場運動部10部、東海大会出場運動部4部、全国大会出場運動部3部が昨年を下回った。文化部については、部員の確保に苦労している状態が盛られた。JRC部以外の一般生徒もボランティア活動に積極的に参加した。</p>	<p>4</p>	<p>治療勧告者に対する指導は徹底できなかった。運動部においては、昨年度以上の活動ができた部もあれば、できなかった部もあった。文化部に関しては、とりわけSSH活動と運動した科学部における受賞歴に目を見張るものがあった。</p>	<p>学校の活性化においては、やはり文武両道の活躍をすることが求められる。次年度はこの点を強く意識した活動を展開したい。そのためには、教員が部活指導に時間を取れる体制づくりも必要となる。さらにSSH活動と運動した科学部においては、昨年度以上の実績を上げた。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大、高・専一貫教育を推進し学園全体の活性化を図る。また、課題研究を推進し他校との差別化を図りつつ、進路実績につなげる。</p>	<p>高・大一貫教育、高・専一貫教育、外部機関との連携教育、SSH事業への取り組み、課題研究</p>	<p>高・大一貫教育に関しては、ワーキンググループの答申を受けプランを推進するため法人・大学・高校の経営サイドの協力を得ながらプログラムの充実を図る。高・専一貫教育に関しては、高校・専門学校の教員の意識にずれが生じないように、より連携を密にしながら思い切った改革を検討する。また課題研究については、連携機関を海外に求め幅を広げ、さらにはより生徒主体の取り組みに移行していく体制を構築する。加えて、SSHの全国発表会に向けて万全の準備体制を作る。</p>	<p>高・大一貫教育に関しては、大学と高校間でワーキンググループを作り経営陣に対し改革案の答申をするにまで至ったが、学内への浸透がいま一つであった。高・専一貫教育に関しては、ルーチン的や運営が見られ改善策についても大きな効果が見られなかった。学外との連携に関しては、100以上の大学・研究機関との連携がとれ課題研究に対する深まりができ、個別指導に関しても充実した指導ができた。また外部のコンテストなどに積極的に応募し、22の賞を受賞することができた。</p>	<p>5</p>	<p>高・大一貫教育のワーキンググループによる検討がなされ、法人・大学・高等学校に対する点案が示された。また、高・専一貫教育に関しては、提携する各校との間で、個別に一貫教育を充実させるための施策を検討し改善を図った。さらに、課題領域に関しては、今年度は静岡理工科大学で本発表を実施することができた。そして、SSHの全国発表会では科学技術振興機構理事長賞を受賞し、3月には日本ストックホルム青少年水大賞において大賞を受賞し、日本代表として世界大会に出場することとなった。</p>	<p>高・大一貫教育に関しては、ワーキンググループからの提案を実施し、その都度検証することが必要。高・専一貫教育については、個別の専門学校との対応ではなく、専門学校部門と高等学校部門との間での高・専一貫教育に対するあり方を検討することが求められる。さらに課題研究に関しては、対象生徒の拡大と指導する教員組織の体制作りをすることも必須の課題となる。SSH活動に関しては、9月のストックホルムの世界大会で世界の頂点に立つことを目指すと共に、コアSSHで採択された台湾の高齢計画招聘のホスト校として、計画の実施を確実に行うことが求められる。</p>
<p>組織運営</p>	<p>組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点から考え、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。</p>	<p>効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の編成及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立と効果的な活用</p>	<p>組織をスリム化することにより円滑な組織運営ができるようにする。また、些細なことであっても報告・連絡・相談をしていくことで、情報の共有化を行い風通しの良い組織づくりをしていく。経理業務に関しては、中小期計画も時流で変化しているもので、それに伴って予算計画も変更していく。また、コンプライアンスが求められる時代の中の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識についても、継続して啓発活動をしていく。</p>	<p>評価項目・達成目標に対しての態勢づくりは希薄であった。また、部長会を通じて横の連携に努めたが、いま一つ共通理解に欠けるものがあった。職員の服務意識に関する啓発はしっかりと行われた。危機管理に関しては、法人の連絡がやや遅かった。経理関係のことにに関しては、管理・予算編成・執行共にしっかりと行うことができた。情報管理に関しては、プリントアウトされたものがプリンター上に放置されるなど若干の甘さがある。文書管理については、稟議書・報告書関係の保存を電子化するシステムを作ったが、逆に処分する体制作りができていない。</p>	<p>3</p>	<p>組織の観点に関しては、スリム化することができなかったものの、円滑な運営はなされた。情報の共有化の点については、必ずしも報告・連絡・相談がすべての点について、上位に行われていたかについては課題が残った。経理業務については、中長期計画の見直しに伴った予算編成計画を編成することができた。情報の管理意識に関しては、個人にコンピュータが賞与される体制が整い強まった面もあるが、一方でペーパーの管理等に関して若干の甘さを残した。</p>	<p>年度に応じた経営目標に沿った組織編成が必要であるので、一概に組織のスリム化が正しい方向性とは言えないが、ネットワークの軽い組織形態を将来に向けて検討することが必要。経理業務に関しては、引き続き学校の中長期計画に基づき、将来をみすえた予算編成を行っていくことが求められる。加えて、情報管理については、より一層強い規範意識をもつことが必要。</p>

研修	<p>学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。</p>	<p>計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施</p>	<p>より、時代をとらえた研修内容を精選して実行し、さらに積極的な参加意識を持った教員集団が結成していく。さらに研修報告会を実施すると共に、次に何をしたらよいかを考える話し合いを実施していく。</p>	<p>教職員の資質・指導力向上のため、重点目標に基づいた校内研修計画が、立案・実行され積極的に参加した面もうかがえたが、理解・実行面・フィードバックの面で希薄であった。また、報告書の回覧はされたものの、報告会を実施されなかった。</p>	3	<p>中学で導入される言語技術教育の研修等に代表されるように、時代をとらえた研修を実施できた。また、教員の授業力向上のためのスキルアップ研修も例年通り実施した。ただし、報告会についての実施は徹底できなかった。</p>	<p>教職員の資質向上に関する研修は継続して実施していくが、その研修を実施することで組織として何を变えるかといった目的意識をしっかりと持って教員研修を展開することが必要。さらに研修報告会を実施すると共に、フィードバック研修もを行い、スキルの維持を確認することも必要。</p>
保護者、地域住民との連携	<p>学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。</p>	<p>保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼</p>	<p>保護者の会との定例会がルーチンで終わることなく、積極的な意見交換の場として発展させていく。また、新たな支援団体の協力を得てキャリアパートナーシップを展開する。さらに地域住民が本校に足を向けたくなるようなイベントをSSH事業を中心に展開していく。そのためにも広報媒体としてホームページを積極的に活用し情報を発信を行う。</p>	<p>保護者の会との間では、定例会をスムーズに実施するために、三役と事前に口頭での説明と意見交換を行い連携を取ることができた。また、キャリアパートナーシップについては、法人内の大学・専門学校の協力を得て、独自に企業開拓を行うことができた。地域連携に関しては、従来の活動に加えてSSHでマサイエンスを実施し、予定以上の参加者を得た。ホームページに関しては、更新のスピードを速めた。</p>	4	<p>保護者の会との定例会は、ルーチンとしての会議でなく、学校と保護者の情報交換・意見交換の場として十分機能した。キャリアパートナーシップについては、事業所の拡大ははかれたが、その一方で辞退する企業も出てきた。SSH事業に関しては、地域貢献は十分にできており、静岡市の理数教育の検討会議においても、その取り組みが話題として取り上げられた。ホームページの広告媒体としての機能はやや停滞した。</p>	<p>静岡北中学校の開校に伴い、保護者の会・同窓会・教育振興会の位置づけが変化するものの、円滑な活動が展開されるように規約改正を行っていく必要がある。またSSH事業、キャリアパートナーシップ事業をより充実したものにしていくためにも、ホームページを一段高い広報媒体として位置づけ、学校の活動をリアルタイムに社会にPRし、本校の教育活動を理解してもらうことが求められる。</p>
施設設備	<p>施設設備の美化と定期的な点検を確実にし安全管理に努め、生徒たちにとっての学習環境を整備する。</p>	<p>効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用</p>	<p>小教室の使い方指導と清掃を確実にし、修理工事に必要書類を揃え、文書で行うことを徹底する。また、生徒会の美化委員会を通じて美化意識の啓発活動を実施する。図書館に関しては、放課後の利用も考え照明を明るくする施設改善を実施する。</p>	<p>大事な行事前教室整備でワックスを掛けることが習慣化され、あえて実施日をもうけず実行された。また、修理工事に必要書類を揃えて、「修理願」を提出しての対応がほぼできた。図書に関しては、取り組む生徒が広がる課題研究に関する関連図書を充実させることができた。</p>	4	<p>環境美化に関しては、徐々に個々の生徒の意識に浸透してきていると思われる。図書館の活動に関しても、受験や日常の教育活動等様々な場面で積極的に活用されていた。</p>	<p>学内の美化に関して、さらに一段高い意識での生徒の活動が求められる。図書館の活用については、進路研究のための基本図書の充実に加え、生徒の感性を育てるための基本図書の整備も必要である。将来的な生徒数を見越した、教育施設の整備計画を検討することが求められる。</p>
総合評価					4.0		